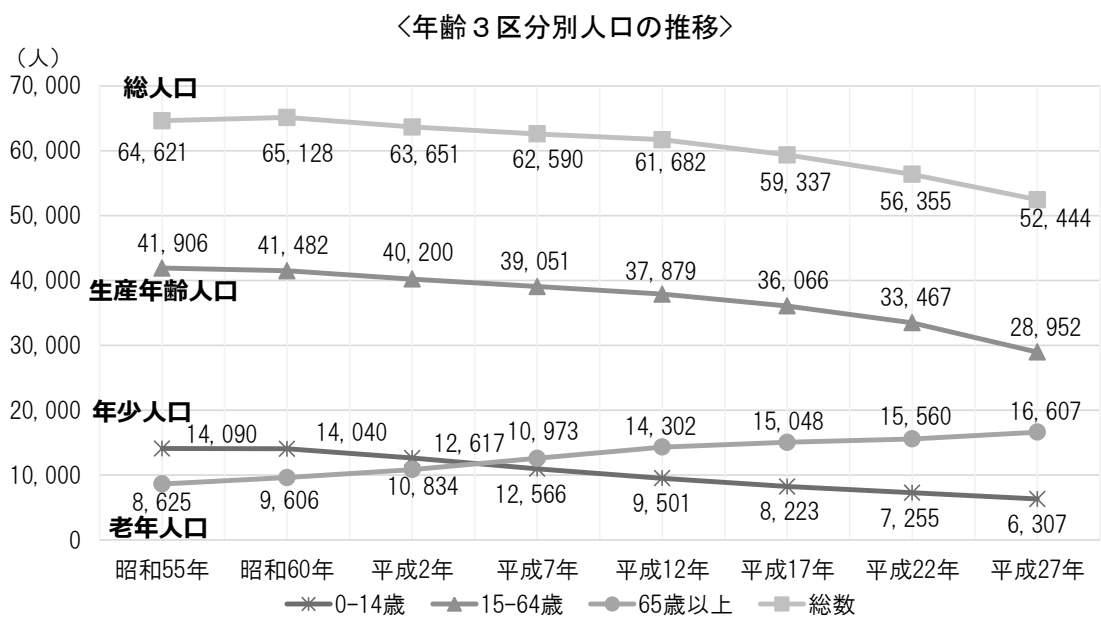


朝倉市の人口動向

(1) 年齢3区分別人口

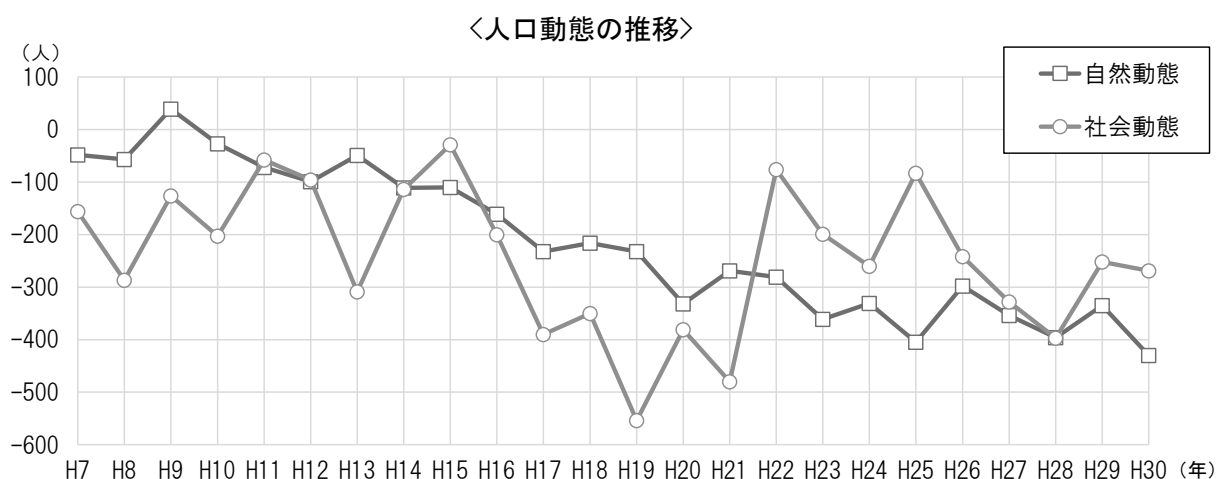
本市において、総人口は昭和 60 年以降緩やかな減少が続き、平成 27 年には 52,444 人となっています。昭和 55 年から平成 27 年まで、生産年齢人口や年少人口の減少が続いています。年少人口については、昭和 60 年時点では 14,000 人を上回っていましたが、平成 27 年時点ではおよそ 6,300 人となっています。一方、老年人口は一貫して増加しており、平成 7 年には老年人口が年少人口を上回りました。



資料：国勢調査（総人口は年齢不詳を含むため、合計が一致しない場合があります）

(2) 人口動態の推移

社会動態（転入数－転出数）をみると、平成7年以降、転出数が転入数を上回る社会減の状態が続いています。社会減の規模は年によって上下していますが、平成19年には社会減が500人を上回り、その後回復はみられたものの、平成30年には200人を上回っています。自然動態（出生数－死亡数）については、自然減の傾向が強くなっており、平成22年以降は概ね社会動態よりも減少幅が大きくなっています。



※平成25年までは3月31日現在（前年4月1日から当年3月31日までの1年間）

平成26年以降は1月1日現在（前年1月1日から12月31日までの1年間）

資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

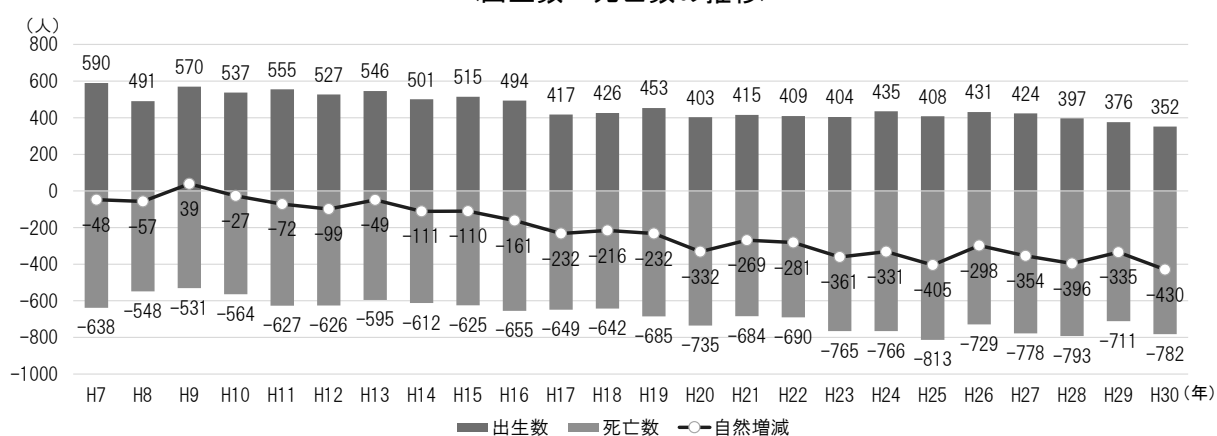
(3) 自然動態（出生・死亡）

本市においては平成10年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続き、平成30年は430人の自然減となっており、出生数は平成9年以降減少傾向で、死亡数は増加傾向で推移しています。

また、合計特殊出生率については、平成20年～平成24年に1.44と国と県を若干上回る数値となっています。

しかし20歳～39歳の女性の人口は減少しているため、出生数の増加につながらず、また、総人口に占める老年人口の割合が年々増加している中で、今後も死亡数の増加が想定されることから、自然動態として人口を増加させることは困難な状況にあると言えます。

＜出生数・死亡数の推移＞

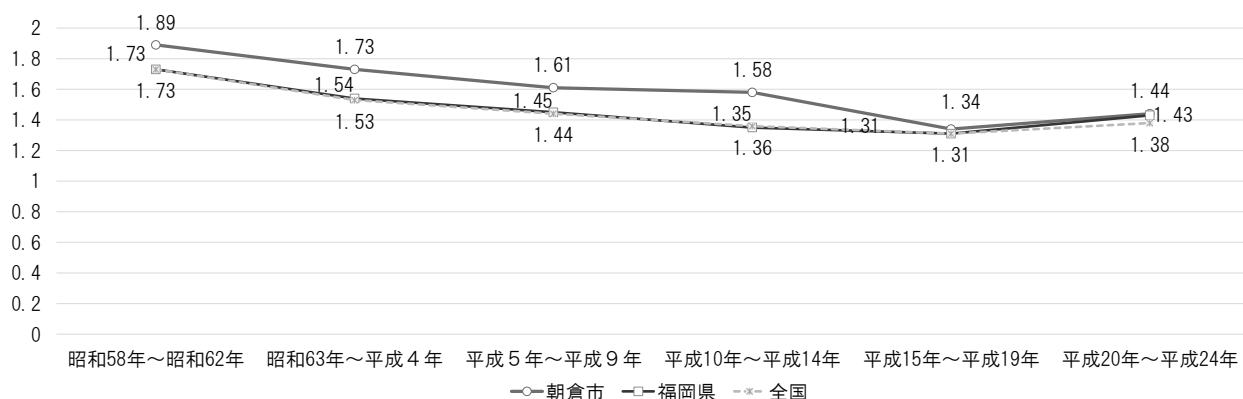


※平成25年までは3月31日現在（前年4月1日から当年3月31日までの1年間）

平成26年以降は1月1日現在（前年1月1日から12月31日までの1年間）

資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

＜合計特殊出生率の推移＞

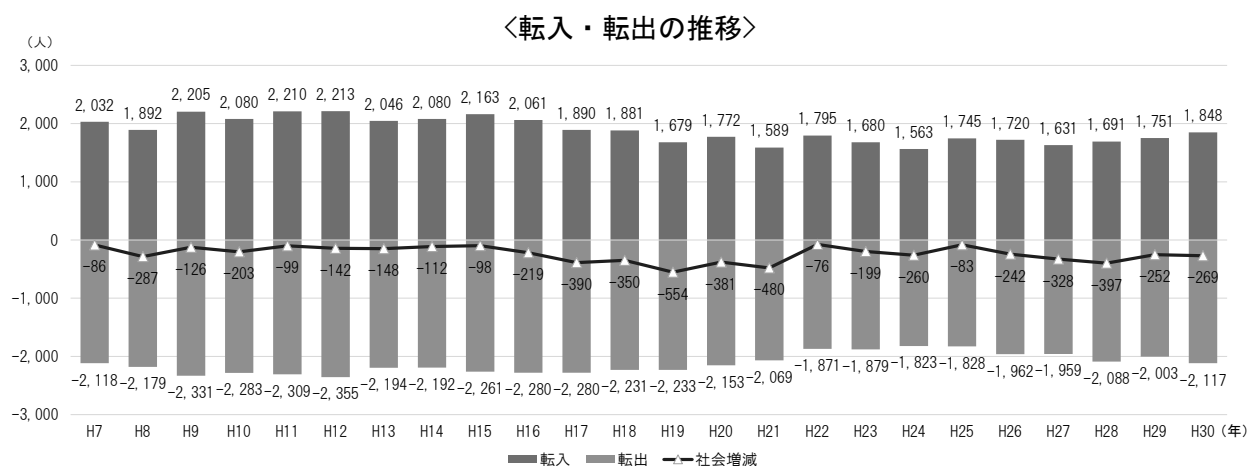


資料：厚生労働省「人口動態調査」、厚生労働省「人口動態統計特殊報告」

(4) 社会動態（転入・転出）

本市における転入者と転出者の関係は、転入より転出が多い転出超過による社会減の状態となっており、年齢別でみた場合、就職などに伴う転出によるものと推察される20～24歳の転出超過が他の年代に比べ顕著ですが、40歳以降になると、転入・転出ともに減少し、均衡した状態となっています。

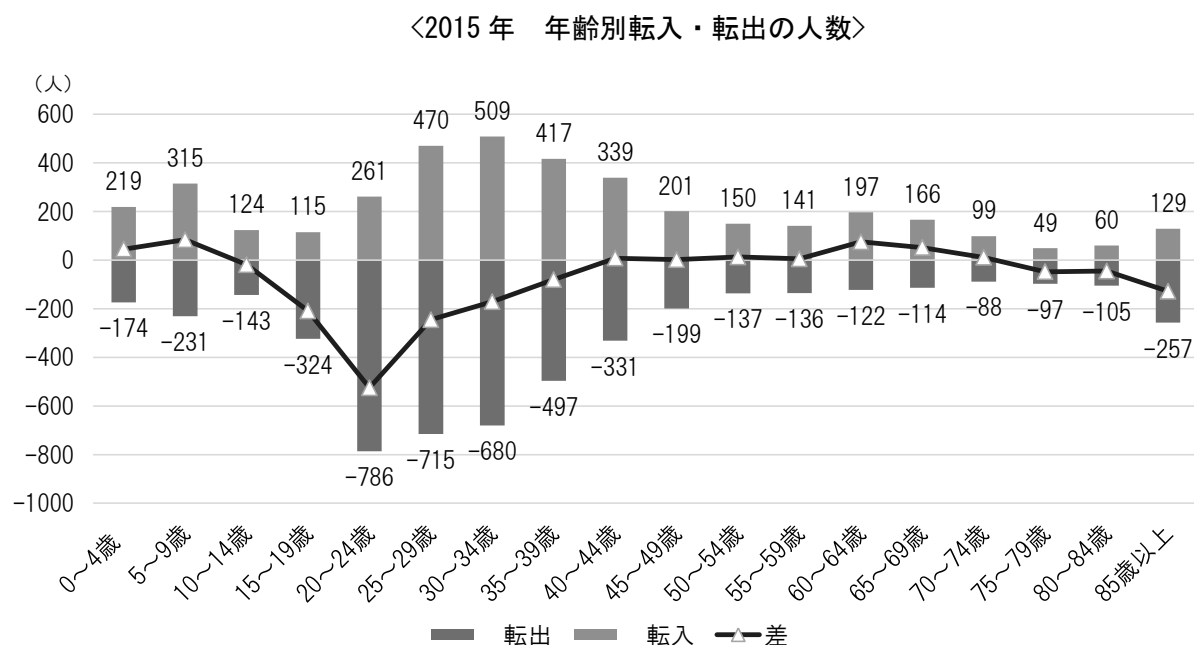
若者の転出超過を抑制し、女性の20～39歳、いわゆる再生産年齢の中心となる世代の転入を増進させることが、人口減少に歯止めをかけるうえで重要になってくると考えられます。



※平成25年までは3月31日現在（前年4月1日から当年3月31日までの1年間）

平成26年以降は1月1日現在（前年1月1日から12月31日までの1年間）

資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」



資料：国勢調査